## （22）外国語第Ⅱ教育部会（独語）（仏語）（中国語）（ロシア語）

| 教育部会名 | 外国語第 II |
|---|---|
| 部会長名／作成者名 | 岩本和子／岩本和子 |

概　　要（2 ページ）

(1)組織・運営について

外国語第 II 部会は、選択必修科目である未修外国語(独語・仏語・中国語・ロシア語)の授業を担当する部会であるが、選択科目である第三外国語の独語・仏語・韓国語・スペイン語・イタリア語も本部会に組み入れられている。(ただし第三外国語の韓国語・スペイン語・イタリア語は 2020 年度から廃止される。)現在の構成員は人文学研究科・国際文化学研究科・国際コミュニケーションセンターの 3 部局に所属する教員からなり、2022 年 3 月末現在で構成員数は 24 名である。各未修外国語の担当者の内訳は次のとおりである。

独語:人文学研究科 2 名、国際文化学研究科 5 名、国際コミュニケーションセンター 3 名 :計 10 名

仏語:人文学研究科 1 名、国際文化学研究科 6 名、国際コミュニケーションセンター 2 名(うち特任外国人教員 1 名) :計 9 名

中国語:国際文化学研究科 2 名、国際コミュニケーションセンター 2 名 :計 4 名

ロシア語:国際文化学研究科 1 名

幹事は 4 つの言語から 1 名ずつ選出され、2019 年度まではそのうちひとりが互選で部会長となっていたが、2020 年度以降は構成員の選挙により部会長を選出することとなった。部会長は所属する言語の幹事もつとめ、独・仏・中・ロシア語の幹事 4 名が幹事会を構成している。部会の運営は基本的には幹事会の合議で行われる。本部会の提供する授業科目は総計(セメスター単位)で約 360 あり、非常勤講師担当率(独語:約 57%、仏語:約 59%、中国語:約 82%、ロシア語:約 88%)が高く、他の部会と比べると、非常勤講師の任用や様々な連絡などの面で部会にかかる負担がかなり大きい。専任教員と非常勤講師の意見交換や授業における連携を緊密に行う必要もあるので、たとえばフランス語では年度の初めに、授業の打ち合わせや事務連絡をかねて非常勤講師との昼食会をおこなっている。(ただし 2021 年度はコロナウィルス問題により対面での昼食会はできなかったが、オンラインでの打ち合わせや懇親会をおこなった。)ロシア語でも学期ごとに非常勤講師を交え、授業の進め方や教科書の利用法についての検討会を開き情報交換をおこなっている。なお、未修外国語の専任教員グループでは必要に応じて会議を開き、各種の懸案について適宜話し合いの場を設けている。

(2)実施状況について　本部会の提供する授業科目は積み上げ方式になっており、カリキュラムマップが完成されている。以下にカリキュラムの体系を掲げておく。

[初級～中級前期]

・1 年:前期(初級 A1, A2, 初級 B1, B2)
　　後期(初級 A3, A4, 初級 B3, B4, 初級 SA3, SA4, 初級 SB3, SB4)

・2 年:前期(中級 C1, C2)

[中級後期～上級]*高度教養科目
・2 年:後期(外国語セミナーA, B)
・3 年:前期(外国語セミナーC, D)、後期(外国語セミナーE, F)

各科目の授業目的等については、シラバスに掲載されるとともに『外国語教育ハンドブック』にも明記され、周知が図られている(たとえば初級 A クラスでは基礎的な文法事項の習得が目的とされ、初級 B クラスでは総合的・実践的な言語運用能力の習得が目指されている。)また、1 年次後期のインテンシブ・クラス(SA・SB)では、日本人教員とネイティブスピーカーの教員が緊密に連携して、高度なコミュニケーション能力の養成が図られている。さらに 2013 年度からの取り組みとして、SA・SB から継続して学べる中級クラス(5 限開講)が設定されている。一方、2 年次には「第三外国語」が選択科目として開講されている(T1・T2・T3・ T4)。このうち独語・仏語については 2017 年度より履修者を初級 A クラスに編入する仕組みが導入されている。「第三外国語」は、意欲的な学生のために複数の外国語の学修に道を開く科目であり、これによって異文化理解の可能性がより広がることが期待されている。

他方、具体的な授業の取り組みとしては、様々な情報機器やインターネット、各種メディアの利用、DVD、CD などの視聴覚教材の活用、対話型学習やペア学習、グループ ワーク、国際的な学習参照基準の活用、IL&AL 室の使用など、最新の教授方法に基づく様々な授業の工夫が見られる。また、小テストなどで学生の理解度を確認しながら授業を進めるとともに、文化事情を紹介するなど学生の異文化への関心と理解を促す努力をおこなっている。さらに、近年では授業改善のための FD 活動もおこなっている。

(3)課題について　本部会の抱える大きな問題は、言語別の履修者数が毎年変動することである。従来は部会内のクラス数の合計を変えずに、履修者の過去の動向を見て言語間で調整を図ってきたが、それでもなおクラス規模の不均衡は完全には解消されなかった。こうした事情をふまえて 2018 年度より、履修言語の選択について、学生に第 1 希望と第 2 希望の言語を選んでもらったうえでの「抽選制」を導入した。できるだけ第 1 希望の言語を学生が受講できるようにするという観点からすると、抽選制の在り方にはまだまだ問題が残るので、本部会としても今後さらにこの制度の整備を進めていきたい。

「第三外国語」のうち韓国語・スペイン語・イタリア語については、大学全体の予算 の関係で、2018 年度より不開講となり、2020 年度より廃止された。これらの言語は国際人間科学部や文学部等で開講される授業で学習することができるが、できれば国際教養教育院で体系的なカリキュラムのもとで開講されるのが望ましい。

(4)総合所見
2021 年度の本教育部会の組織・運営とその実施に関しては、ほぼ計画度通り遂行できたといえよう。今年度もコロナ禍で外国語（特に 1 年生の初級)は 1 年間を通して基本的に遠隔授業となったためにその準備や授業方法の変更で各教員とも負担が大きかったが、試行錯誤を繰り返しながらより良い授業の工夫がなされたと思う。また外国語第 II の専任・非常勤教員間で授業に関する打ち合わせや連絡を頻繁に行っい、情報交換・意見交換を緊密に取れていたと思われる。

## A　組織構成と運営体制について

①基本的な組織構成が適切であり、実施体制・運営体制が適切に整備され、機能しているか（100 字程度）

| |
|---|
| 外国語第Ⅱ教育部会の 24 名の構成員はそれぞれの言語グループ内で緊密に連絡を取り合い、何か問題や提案がある場合は即座に幹事会を開き、必要に応じて総会を開催するという体制が適切に機能している。 |
| 根拠資料：教育部会構成員名簿、幹事会の記録 |

## B　内部質保証について

①学生を含む関係者等からの意見を体系的、継続的に収集、分析し、その意見を反映した取組を組織的に行っているか（100 字程度）

| |
|---|
| 各クオーターの最後の授業中に学生に振り返りアンケートを記入してもらい、授業担当者はそこに書かれた学生からのコメントに回答するよう要求されている。また、シラバスには「今年度の工夫」欄を設けて学生からの意見を反映した取り組みがわかるようになっている。 |
| 根拠資料：授業振り返りアンケート結果、シラバス |

②自己点検・評価によって確認された問題点を改善するための対応措置を講じ、計画された取組が成果をあげている、又は計画された取組の進捗が確認されている、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されているか（150 字程度）

| |
|---|
| 外国語第Ⅱ教育部会の自己点検・評価によって確認された問題点を改善する対応措置を講じるために各言語グループ内で意見を出し合い、それを幹事が幹事会に持ち寄って対応措置案を策定し、構成員の承認を得て実行している。またその取り組みの進捗状況については、幹事会で随時検討して確認を行っている。 |
| 根拠資料：前年度までの自己点検・評価報告書、シラバス（今年度の工夫） |

③授業の内容及び方法の改善を図るためのＦＤを組織的に実施しているか（100 字程度）

| |
|---|
| 今年度はピア・レビューはおこなわなかったが、言語グループの枠を超えた教員間の情報交換を幹事会、専任教員会議、専任および非常勤教員間の懇談などを開催して行っている。 |
| 根拠資料：会議の開催通知、記録 |

④教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、適切に活用されるとともに、それらの者が担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施しているか（100 字程度）

| |
|---|
| 国際コミュニケーションセンター・ヘルプデスクに AL&IL 教室での授業を援助する人員が配置されている。ランゲージ・ハブ室には留学生 TA が配置されていて、学生が気軽に外国語を使えるようにしている。今年度は遠隔授業のためにこの活動はおこなえなかったが、将来的にはこれら TA に対する研修も考慮し たい。 |
| 根拠資料：国際コミュニケーションセンター・ヘルプデスクの業務記録 |

## C　教育課程と学習成果について

①　当該教育部会が提供する授業の目標が、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものとなっているか（100 字程度）

| |
|---|
| 本教育部会の提供する授業の目標は全学共通科目の区分ごとの学修目標に対応したものとなっており、多くの授業で最新の教科書が使われ、基礎的な学力と異文化への関心と理解を促しつつ実戦的な運用能力の向上をめざしている。 |

| |
|---|
| 根拠資料：『外国語教育ハンドブック』、シラバス、教科書、授業中に配布した資料、授業で使用した視聴覚教材 |

②授業担当者に共通目標や学部からの要請を示し、到達目標をそれに沿ったものにする配慮がなされているか（100 字程度）

| |
|---|
| 各言語教員グループ単位で授業担当者に対して共通目標や学部からの要請を伝えている。また、『外国語教育ハンドブック』を授業担当者にもあらかじめ配布して、授業の到達目標や進め方に配慮を求めている。 |
| 根拠資料：『外国語教育ハンドブック』、シラバス、各教員の自己点検・評価シート |

② 授業科目の内容が、共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっているか（100 字程度）

| |
|---|
| ほとんどの授業で最新の教科書が使われており、比較文化的内容のもの、各種情報メディアやインターネットなどを通したアクチュアルなニュースを扱うものなども多く、「外国語の基礎的な学力と教養を身に付ける」という到達目標を達成するものとなっている。 |
| 根拠資料：シラバス、教科書、授業中に配布した資料、授業で使用した視聴覚教材、各教員の自己点検・評価シート |

③ 単位の実質化への配慮がなされているか（100 字程度）

| |
|---|
| なされている。最終試験以外に、小テストや中間テストを実施して理解が不十分なところを学生に自覚させる授業や毎回課題を出す授業も多い。 |
| 根拠資料：シラバス、小テスト、レポート課題、出席簿、授業振り返りアンケート、教材、各教員の自己点検・評価シート |

⑤教育の目標に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組み合わせ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法の工夫がなされているか（150 字程度）

| |
|---|
| 初級外国語の授業は基本的には講義形式となるが、一方的に指導するのではなく、各授業の目標とクラスサイズに応じて適切な学習指導法を採用している。たとえば、様々な情報機器やインターネット、各種メディアの利用、DVD など視聴覚教材の活用、対話型学習やグループワークなど、最新の教授法に基づく工夫が見られる。 |
| 根拠資料：『外国語教育ハンドブック』、シラバス、授業中の配布資料、授業記録、各教員の自己点検・評価シート |

⑥シラバスに、必須項目として「授業名、担当教員名、授業のテーマ、授業の到達目標、授業形態、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意（関連科目情報）、事前･事後学修」及び「教科書又は参考文献」が記載されており、学生が書く授業科目の準備学修等を進めるための基本となるものとして、全項目について記入されているか（50 字程度）

| |
|---|
| 年度途中で採用された教員などを除き、すべての構成員が全項目記入してい る。 |
| 根拠資料：シラバス |

⑦学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか（100 字程度）

| |
|---|
| 行われている。専任教員は研究室やオフィスアワーの情報をシラバスに記入して、個々の学生のニーズに応じた履修指導や助言等をしており、非常勤教員は授業の前後の時間をそれにあてている。今年度は遠隔授業が多い（２年生以上対象の少人数授業を除いて）ため、メールなどの通信手段で対応した。 |

| |
|---|
| 根拠資料：シラバス、各教員の自己点検・評価シート |

⑧学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか（100 字程度）

| |
|---|
| 専任教員は研究室やオフィスアワーの情報をシラバスに掲載して、個々の学生の学習相談に応じる体制を整備して、学生への適切な助言・支援を行っている。非常勤教員は授業の前後の時間をそれにあてている。今年度はメール、BEEF のチャット機能、授業中に直接あるいは Zoom のチャット機能、課題や質問・コメントの提出とそれへの解答、などで行っている。 |
| 根拠資料：シラバス、各教員の自己点検・評価シート |

⑨成績評価基準及び成績評価方針に従って、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか（100 字程度）

| |
|---|
| 幹事会において科目単位で成績分布が適正であることを確認しており、適正でない場合は関係教員に幹事から注意を促している。 |
| 根拠資料：シラバス、試験答案、成績分布（国際教養教育委員会資料） |

⑩学修目標に従って、適切な学修成果が得られているか（100 字程度）

| |
|---|
| 学生の振り返りアンケートでは各言語ともほぼ全項目にわたって「中」以上の良い評価を受けている。外国語学習を通して各言語圏の文化や社会などに興味を持つようになった学生や海外研修への参加を希望する学生も多い。 |
| 根拠資料：試験答案、授業振り返りアンケート結果 |